

）「應環 欽慕の聲樂家。明治十七年（一八八四）十一月、『歌舞伎生れ』、昭和二十一年五月、二十六日歿（一九三〇）。舊姓柴田。明治二十七年東京音樂學校卒。大正二年ドイツ留学。翌年ロンドン公演「お蝶夫人」で成功、爾來歐米各地の劇場で歌謡一千回と有る。昭和十一年歸國後後進の指導に當つた。

著書『世界のオペラ』（柴田謙名、明治四十七年五月、共進商社書店）、『ダビッド・ベニスコ原作 歌劇『バタフライ』脚色』（歌舞窟、田谷庄門編、昭和十一年一月、『歌舞樂甲集社』）、『歌が曲を語る』（久保・家庭新聞社編著、『歌舞窟向一新舞進都子編、昭和十六年十一月、『歌舞窟夫人』（日本明光社、昭和二十一年五月、右文社）等。

文献、吉本明光著『一應環の『蝶夫人』』（昭和二十年七月、『音楽』）、友社「吉澤文庫」）、櫻井内藤美著『『蝶夫人』』（昭和四十四年七月、『文庫叢書』）等。